

平成 22 年度第 2 回 IODP 部会執行部会議事録(案)

日時:2010 年 7 月 9 日(金)14:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:山崎俊嗣(産業技術総合研究所)、安間 了(筑波大学)、芦 寿一郎(東京大学)、
沖野郷子(東京大学)、坂本竜彦(海洋研究開発機構)、末次大輔(海洋研究開発機構)
林 広樹(島根大学)、平野直人(東北大学)、松本 剛(琉球大学)、山本正伸(北海道大学)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:柴田晋吾、酒井佑介
海洋研究開発機構:倉本真一
事務局:菊田宏之、梅津慶太

欠席者:池原 実(高知大学)、高澤栄一(新潟大学)、森田澄人(産業技術総合研究所)、
山本啓之(海洋研究開発機構)

議事次第

1. SASEC、IWG+、APIC 会議報告(山崎部会長).....資料 1, 2
2. New Science Plan 策定に関する国内対応について(山崎部会長、事務局).....資料 3
3. 地球掘削科学推進委員会報告(山崎部会長、事務局).....資料 4
4. J-DESC 独自の予算執行およびその他の事務手続きについて
・手続き上の問題点など(平野委員)
・会員提案型活動経費報告(H22_03Jordan 申請)(事務局、安間部会長補佐).....資料 5
5. IODP 掘削航海関連(事務局、山崎部会長).....資料 6
6. 国内専門部会・国際会議関連
・SASEC、SSEP 委員(事務局).....資料 7
・PMO 会議(山崎部会長).....資料 8
・その他報告(各担当者)
7. JKOD シンポジウムについて(山崎部会長、松本委員)
8. 教育・普及関連
・コアスクール古地磁気コース(事務局、山崎部会長).....資料 9
・J-DESC レクチャー&サイエンススクール(坂本委員).....資料 10, 11
9. その他
・JAMSTEC 国際深海掘削研究推進プロジェクトチームについて(JAMSTEC)
・次回開催日

配布資料

- 資料 1 SASEC Executive Summary
- 資料 2 APIC meeting Minutes
- 資料 3 INVEST 国内 WS 世話人リスト
- 資料 4 第 1 回地球掘削科学推進委員会議事次第
- 資料 5 H22_03Jordan 提案書
- 資料 6 IODP 掘削航海応募状況
- 資料 7 SASEC, SSEP ローテーション表
- 資料 8 PMO 会議 Draft Agenda&前回会議 Minutes
- 資料 9 古地磁気コース実施概要
- 資料 10 J-DESC レクチャー制度(仮称)について
- 資料 11 J-DESC サイエンススクール(仮称)について

議事録(案)

1. SASEC、IWG+、APIC 会議報告(山崎部会長).....資料 1, 2

柴田企画官および山崎部会長より SASEC、IWG+会議に関して報告がなされた。

- ・ 6月に京都で開催された。
- ・ 次期枠組みに関して、POC・SOCの仕組みはなくすこと、Comingle foundは維持し、その中から「ちきゅう」に対して年間10MUSDを出資することを合意した。
- ・ 日米がLA、欧州はPlatform Provider、その他はMemberとする(Associate Memberを設けるかどうかは今後検討する)。
- ・ 現状程度の乗船枠、SASの投票権を維持することで大筋合意した。
- ・ Platform ProviderとMemberの権利については今後議論する。
- ・ CMOについては、今後5年間はIODP-MIが引き続き役割を踏襲する。但し、運営のためのお金は減額。
- ・ 意思決定機関としてProgram Governing Board(PGB)のようなものを設置することを合意した。詳細は今後議論する。
- ・ 現行2つの委員会、5つのパネルを1つの委員会(Science Implementation)、2つまたは3つのパネルに簡素・合理化する。EDPは廃止、SSPはプロポーザル評価パネルに統合、EPSP、STPは残るという案がある。
- ・ 来年の夏にはすべて現行システムから新たなシステムに移行するスケジュールが想定されている。
- ・ プロポーザル募集は今年10月のメ切が現行のISPでの最後の募集となる。
- ・ 2013年以降のプログラムの名称についてワークショップ(名称を考えるものではなく名称決定のコンセプトを話し合う)をNSFが計画している。

山崎部会長より APIC 会議に関して報告がなされた。

- ・ SASECに合わせて京都で開催された。
- ・ J-DESCとしては、APIC外の立場として必要な協力は行うことを改めて表明した。

2. New Science Plan 策定に関する国内対応について(山崎部会長、事務局).....資料 3

- ・ New Science Planのドラフト版が8/1にコミュニティーに公開される予定。
- ・ 今度のScience Planは現行のISPのようなバイブル的なものではなく、予算獲得を主目的とするものであり、すべての科学提案に対して排他的ではない。

以下の件が合意された。

- ・ J-DESCとしてのパブリックコメントを提出するため、旧INVEST国内WS世話人に協力を求める。
- ・ 各分野で世話人を中心に意見を取りまとめて9/14のメ切までにIODP-MIに提出する。

深海掘削委員会について柴田企画官より説明がなされた。

- ・ 秋に開催する予定がある。深海掘削委員会は、文部科学省の海洋科学技術・学術審議会の下に設置されている海洋開発分科会が設置する委員会。
- ・ 深海地球ドリリング計画について評価する委員会。現行のIODPのレビュー、次期計画について審議を行う。
- ・ J-DESCとJAMSTECに次期の「ちきゅう」の計画の候補をある程度国内でコンセンサスを得てほしい。
- ・ New Science Planへのコメントについてもこの委員会にて紹介し、審議会への報告に盛り込みたい。
- ・ 南海掘削についてもレビューを行うことになるだろう。
- ・ 事務局を通じて協力をお願いをすることがある。

3. 地球掘削科学推進委員会報告(山崎部会長、事務局).....資料 4

山崎部会長および事務局より報告がなされた。

- ・ 地球掘削科学推進委員会(委員長:小川勇二郎氏)が7月1日に開催された。
- ・ 掘削科学研究推進費について、前回会議でまとめたIODP部会としての意見を提出し、認められた。現状としては、JAMSTEC内での事務手続きに関して進めている段階。

- ・陸上掘削部会からの意見としては、ICDPのプロポーザルにまとまったお金を支援してほしいというものであったが、ICDPについては今年度執行支援を見送るが、来年度以降2年間はまとまったお金をICDPに支援することが合意された。
- ・IODPプロポーザル作成支援に関して、掘削研究専門部会にこれまでのレビューをしてもらうことが合意された。

4. J-DESC 独自の予算執行およびその他の事務手続きについて

・手続き上の問題点など(平野委員)

平野委員より実際の運用上の問題が挙げられた。

- ・自分では判断できないことがいくつかあった(会員提案型活動経費の提案予算になかった経費の執行など)。
 - ・今のところそれほど大変な作業ではない。
- 現行の手続きでもうしばらくやってみることが合意された。

・会員提案型活動経費報告(H22_03Jordan 申請)(事務局、安間部会長補佐) 資料 5

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・国際ナプランクトン学会@山形の開催費について申請があった
- ・現在審査委員会にて審査中。

会員提案型活動経費については以下の件が合意された。

- ・国際会議等への支援には上限を設けることを検討する。
- ・会員提案型活動経費に支出できない費目を明確にする(ウェブに記載)。
- ・要旨集やウェブページにJ-DESCのロゴマークを掲載することをルール化する。

5. IODP 掘削航海関連(事務局、山崎部会長) 資料 6

事務局より乗船者応募状況について報告がなされた。

- ・Exp. 332, 333, 334, 336 の乗船研究者を募集中
- ・Exp. 332 のサイエンスパーティーは Co-chief も含めて 10 名程度が予定され、日本人 Co-chief がいるため、2 名程度が応募者から乗船することになる見込み。
- ・Exp. 331, 335 は掘削航海専門部会にて評価中。

Exp. 318 に関する問題について山崎部会長より報告がなされた。

- ・詳細は省略

6. 国内専門部会・国際会議関連

・SASEC、SSEP 委員(事務局) 資料 7

事務局より委員ローテーションについて説明がなされた。

- ・SASEC は 6 月の会議で異委員と加藤委員の 2 名が退任した。異委員は BoG からの委員。
- ・BoG メンバーが異委員の後任になる必要があるかどうかを確認する必要がある。→事務局が確認
- ・SSEP は石渡委員の後任と稲垣委員の代理委員を選出する必要がある。MI からの要請として、次回の SSEP が最後であるため、経験豊かな人を後任または代理委員として立ててほしいとのこと。
- ・日本としては KAP をフォローするため地震学関連の専門家を石渡委員の後任として推薦する。

・PMO 会議(山崎部会長) 資料 8

山崎部会長より説明がなされた。

- ・SPC に引き続き 9 月 2 日に開催される。
- ・Agenda としては新しいプログラムの組織に関して等が挙げられている。
- ・サマースクールの実施形態についてヨーロッパの例を聞いてほしい。

・その他報告(各担当者)

科学計測専門部会の石橋部会長より報告がなされた。

- ・「ちきゅう」船上の超電導磁力計の問題について CDEX での対応が見えない(専門部会へのフィードバックがない)ことの問題が顕著になった。
- ・以上を背景として CDEX と専門部会との意見・情報交換はどのようにすればよいか検討してほしい。
- ・専門部会から意見を出した後どのように対応されたかを知るすべがないことが問題である。すべての意見が受け入れられるとは思っていないが、どのように対応したかについて、例えばできないことはできないなど、何らかの報告がほしい。

今後、SAS の改編に伴い STP の新しい SAS 内での位置づけを考慮しながら、科学計測部会の位置づけと CDEX の関係性を検討していくことが合意された。

7. JKOD シンポジウムについて(松本委員)

松本委員より報告がなされた。

- ・10月11日、12日に琉球大学にてワークショップを開催する予定。
- ・J-DESCのウェブページに案内を掲載予定(沖縄トラフ掘削プロポーザル事務局よりIODP部会事務局に連絡がある)。

8. 教育・普及関連

・コアスクール古地磁気コース(事務局、山崎部会長).....資料9

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・8月25日～27日に高知コアセンターにて開催予定。
- ・承認され次第募集開始。

実施概要について異論はなく承認された。

・J-DESC レクチャー&サイエンススクール(坂本委員).....資料10, 11

坂本委員より標記の件について説明がなされた。

- ・IODP キャンペーンに代わる E&O 活動として J-DESC レクチャー制度を提案する。
- ・サイエンス面(論理的思考なども含む)のレベルアップを目的としたサイエンススクールを提案する。
- ・ホームページを充実させる。レクチャー制度については実際に動きだすことが必要であるため、まずは執行部委員が登録する。
- ・講師登録としては、DSDP や ODP の乗船研究者も含め IODP 乗船研究者、SAS 委員経験者、賛助会員などにも働き掛ける。
- ・派遣システムを悪用されないようにしっかりと申請書と審査システムが必要。
- ・J-DESC 独自予算とこれまでキャンペーン向けに執行していた CDEX からの支援のお金を想定している。基本的には講師旅費のみ支給し、謝金などは支給しない方針。
- ・サイエンススクールについては引き続き検討する(PMO 会議で ESSAC から情報収集する)。
- ・これまで行ってきたキャンペーンについては希望があれば行うというスタンスにする(こちらからの働き掛けはしない)。

9. その他

・JAMSTEC 国際深海掘削研究推進プロジェクトチームについて(JAMSTEC)

CDEX 倉本氏より標記の件について説明がなされた。

- ・JAMSTEC 平理事がリーダーとなって、IODP のサイエンスを戦略的に推進するために組織された。
- ・「ちきゅう」だけに限らず、JR 号や MSP についても研究者、技術者、マネジメント従事者が一体となって推進する体制。
- ・地震津波分野、地殻マントル分野、古環境分野、地下生物圏・深部炭素循環分野の4つの分野から構成されている。

- J-DESC とも同じ方向を向いてサイエンスを推進していきたいと考えている。

- モホール国際 WS

安間部会長補佐よりモホール国際 WS の報告がなされた。

- 3 つの掘削候補地点(ハワイ沖、メキシコ沖、コスタリカ沖)について事前調査のプライオリティーを決定した。
メキシコ沖が 1st priority。
- 非常に実りの多い WS だった。

- 次期深海掘削プログラムのネーミングに関するワークショップについて

- 次期深海掘削プログラムの名前を決めるコンセプトを話し合うためのワークショップが日本で行われる予定とのこと。
- NSF が Ocean Leadership にファンドしてアメリカ、ヨーロッパ、アジア(日本)で行う。

- 次回開催日

8 月下旬または 9 月上旬に開催。メールにて日程調整。